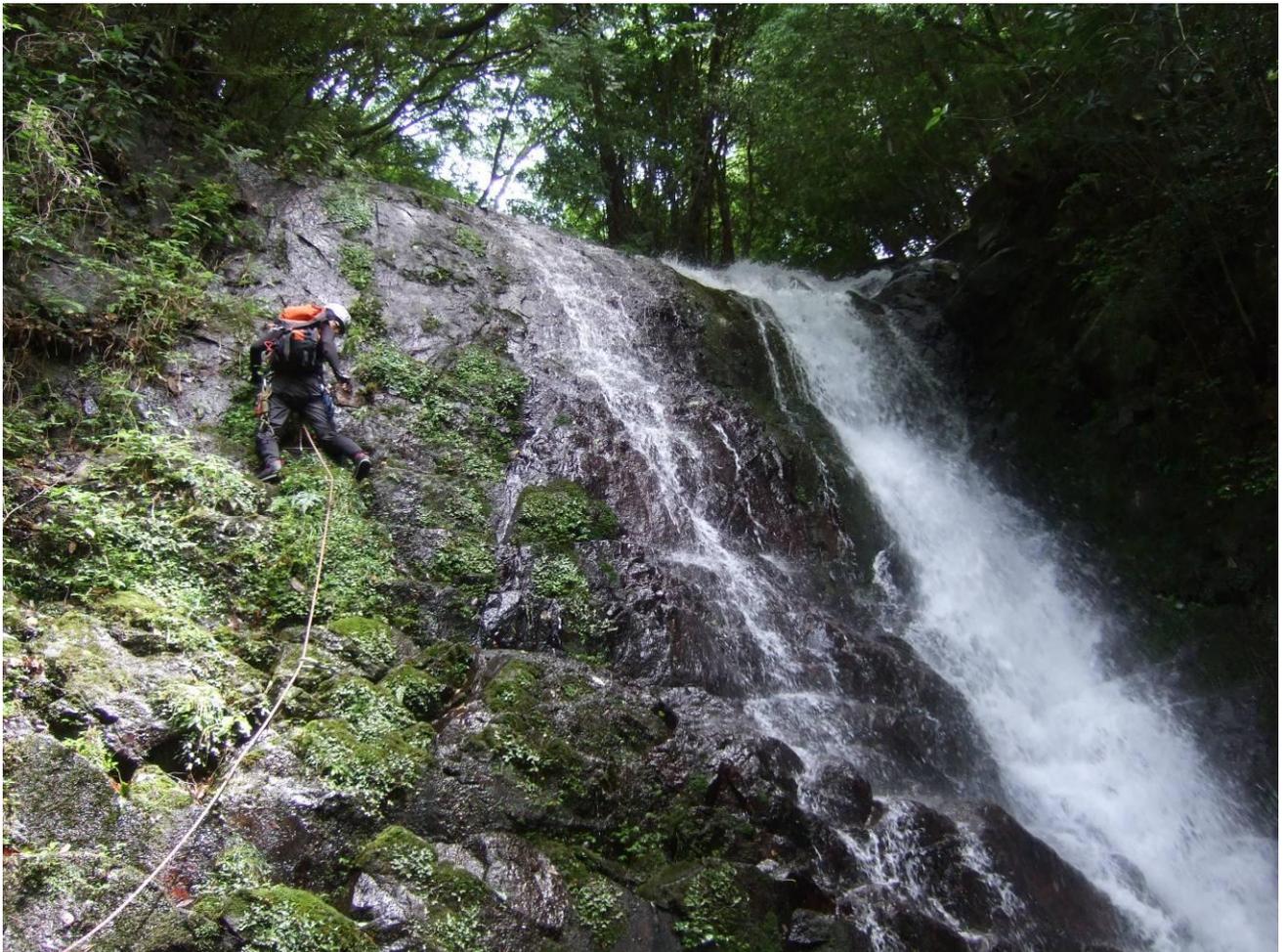


おれんじニュース

No269

2012年8月号



7月8日黒木小川内左俣の最後の滝 ロープを持って登るカルチャーのH氏

★ 会員一人一人が運営委員です。みんなでオレンジHCの運営に参加しましょう。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から

	8月	9月	時 間	場 所
運営委員会	8日(水)	12日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	3日(金)山行時	7日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	22日(水)	26日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館





6月10日午後1時半ごろ寒冷前線の雲を見た 雲仙普賢岳



7月8日 黒木小川内左俣
写真提供 富永氏(東部)

佐賀旅、





8月山行計画

部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月・日	8月3日(金)	8/4~8/9	8月19日(日)
山名 (行事)	多良岳	白峰三山 (北岳、間ノ岳、農鳥岳)	金山(967.2m) 獵師岩山(893.4m)
地 図	多良岳		脊振山
集合時間	西諫早駅 8:00	諫早高速バス乗り場 17:40	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初級	中級健脚	初級
帰着時間	15:00	8/8	18:00
歩行時間	2.5h	8/5(8h) 8/6(9h)	4h
交通手段	マイカー	往復夜行バス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	バス2泊 山小屋3泊	日帰り
温泉			有り
参加費	1,000円	80,000円位	4,000円
申込期限	定員になり次第	7/10	定員になり次第
集約	林	佐原	田中
備考	オオキツネノカミ ソリの見頃です	鳳凰三山から眺めた日 本第2の山へ登ります。	豊富な沢水に彩られた登 山道花乱の滝から登る
感想文提出	8/13	8/18	8/29

技術研修部より

8月25日(土曜日)

セルフレスキュー (JR西諫早駅 9:30 集合)

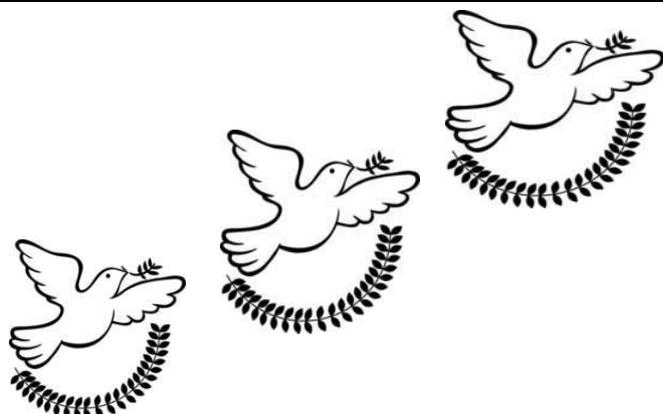


佐賀の広域搜索訓練に向けてのレスキューです。



9月山行計画

部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	2日(日)	9/8(土)~14(金)	14日(金)	17日(月祝)
山名 (行事)	浅間山 (831.5m)	槍~穂高縦走 (3180~3190m)	安満岳(514m) 鯛ノ鼻(447m)	大野岳
地 図	英彦山	槍ヶ岳、穂高岳	紐差・生月	
集合時間	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早高速バス乗場 20:19	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	西諫早駅 8:00
難易度	初級	健脚	初級	初級
帰着時間	18:00頃	14日 6:34	18:00	17:00
歩行時間	3.0h	3.5/8.0/7.0/9.0h	2.0h	2.0h
交通手段	マイクロバス	往復夜行バス	マイクロバス or ジャンボ	マイカー
宿泊施設	日帰り	夜行バス2泊 山小屋4泊	日帰り	日帰り
温泉	有り(福祉センタ)	有り(上高地)	?	無し
参加費	5,000円	約80,000円	4,000円	3,000円
申込期限	定員になり次第	8/10	定員になり次第	
集約	田中	鎗水	林	佐原
備考	7月の分です。今 度こそ	体力・技術を要する縦走 但し希望があれば槍ヶ岳 折返しも併計画		外海の史跡めぐり
感想文提出	9/12	9/24	9/24	9/27



6月30日平和行進



県連関係

九州ブロック広域搜索訓練 (佐賀、in 黒髪山少年自然の家)

日 時 9月22日(土)～23日(日)

参加費 一人2000円(1泊2食) 日帰り500円

22日午後よりセルフレスキュー講習 23日5コースに別れて遭難救助訓練

申込み先 : 事務局山下まで 8月20日までに。

個人装備 : (カラビナ2, 3個、スリングテープ数本、23日の行動食)

第12回 登山フェスタ in 雲仙

～山を愛し、山で遊び、山に学ぶ仲間の集い～

期 日 10月27日(土)～28日(日)

場 所 有明町「舞岳山荘」(農林漁業体験実習施設)

参加費 2000円(宿泊者) 500円(日帰り)

27日 講 演 「雲仙の四季～花、鳥との出会い」

雲仙パークボランティア会会員渡辺博光氏

交流集会 DVD上映 「伯耆大山の冬山訓練」、「ブータントレッキング報告」

28日 交流登山

A班、雲仙新登山道(健脚)コース

B班、田代原自然観察コース

C班、九千部岳登山コース

D班、舞岳登山コース(8888段)

E班、牛首岩登りコース(雨天時セルフレスキュー)

申込み先 : 松園 8月20日までに希望コースと

(住所、電話、年齢、血液型)を添えて申し込む



2012年6月/7月の山行報告



6月17日(日)

石谷山(754.4m)・雲野尾峠(400.1m)

(参加者9名) 川原慶紀・久保元治・岩永のり子・山口いつこ・林田むつ子・森寿美子
中須賀孝正・金丸直美・下釜みつ子(案内人:佐賀労山 江口氏)

(行程)

8:00 諫早駅裏ロータリー 8:10 JR西駅前 9:00 金立 東背振IC 9:40 いこいの森公園キャンプ場駐車場 10:15 駐車場発 10:25 お手洗の滝・雲野尾峠分岐 10:30 十三石仏像 11:15 大岩 11:25 林道出会・四阿 11:30 雲野尾峠分岐 12:12△石谷山 (昼食) 13:05 発 13:25 雲野尾峠分岐 13:30 高圧線鉄塔 13:35 林道出会 14:30 雲野尾峠分岐 14:35 峠・お手水分岐 14:40△雲野尾峠一分岐 15:10 お手水の滝 15:15 駐車場 駐車場 15:20 発 15:40 鳥越温泉 16:30 発 17:50 JR西駅着

(感想)

一昨日の梅雨の降雨後で曇天～薄曇り・晴れの天候、佐賀方向に往くにつれて高速道は乾き気味となり、今日は雨中山行は避けられるかとの期待が持ててきた。例のごとく金立で休息、東背振ICから県道31号線経由で石谷山登山口の佐賀県いこいの森キャンプ場の駐車場に9時40に着いた。

本日の山行案内の佐賀県労山の江口さんはすでに到着でオレンジ隊の到着を待っておられた。氏は3月の金立山山行の案内をしていただいた方、温厚な顔立ちと語り口の山人である。

本日、初SLというS女史号令によるウォーミングアップ・地図の正置と目的方向へのコンパス合せ後、雨後の高沢音のする沢沿いの登路を進んだ。間もなく右方の雲野尾峠分岐・前方のお手水の滝をみて、左方にある13の石仏像の前をとおろし、ここから急坂となった。

すべってはまずいと坂路をよそ見もせず直視しつつ登っているとCLのK氏のアツとの歓喜の声、「ツチアケビ」だった。

今の時期だったのかと想いついたが普通よりは早い出芽かとおどろいた。まだ開花には日時がいるなどの感じ。日陰に出るのが普通のようなが幾分痩せぎみの株が二つならんでいた。

暫くすると急坂からなだらかな登路となり自然林-檜の植林帯をすぎ、1時間ほどで林道にでた。すぐ前方に四阿屋がありまた、キャンプ場があらわれた。

ついで大岩石(横幅5m・縦幅2m・深さ3mほどの30tほど)の横をすぎ(この山はや



はり石が特徴なのか??)、木は植林帯から落葉・常緑樹帯となり檜の木が多いなどの感じである。

登路はV字状のえぐれた道となり暫くして、右方に雲野尾峠分岐・石谷山頂 0.9 kmの標識が現れ、ここからまたやや急坂となり 12 時 5 分に石谷山頂についた。登山口からは約 2 時間である。自然林に囲まれた見晴らしはないが直径 20mほどの円形の空間、空も見える頂上。

数年前に石谷山経由・九千部山登山の経験があるが、その時に見たこの石谷山頂のトーテムポールは年がたち朽ちかけペンキの字も読みにくく、ベンチの長腰掛けも支柱部は朽ちて前後にぶらぶらの状況である。小生もオレンジ入会后 9 年目、齢は古希を過ぎかけだ、おなじようなものか!!。

早速、記念撮影・昼食を取っていると、今時はやりの「ヤマ・ガール」が、九千部山方向から一人忽然と現れ山頂標識・三角点を携帯カメラで納めてそそくさと立ち去った。オレンジ隊と互いに挨拶はしたが情報交換とまでは至らなかったのは少し残念な気がしないでもなかった。今回の山行で出会ったのはこの一人だけだった。

昼食を摂っていると日が差し風もやや出てきて汗もやや乾いてきた。1 時すぎに下山・雲野尾峠をめざす。登りがけにあった分岐まで勢いよく下るが、なかなか分岐が現れない。登り時には帰りのことを思い皆この分岐が頭にあったと思うが、時間・距離の感覚は登りと下りではやはり異なるものなのかなと自覚させられた。

20 分ほどで分岐が現れ、自然林の中を 10 分ほどで高圧線の鉄塔横をすぎまた林道に出た。登りがけに出くわした林道の東側にあたると思われた。

さてここからどの方向に向かうべきか??。CLのK氏の 1/25000 地形図の高圧線の通り具合(高圧線と林道の交差のぐあい)を参照して、林道のこの地点をそのまま直通すべきと判断し樹林帯を進むとまた林道に出た・これは正解であった。

しかしつぎに、この林道のどこの地点が雲野尾峠への分岐かは標識もなく困ったが、案内の江口氏の経験により間違いなく峠への分岐路がわかった。

峠と判断される地点(高度の予測から)への方角やその方角への踏み分路の見分け方が重要な進路判断の材料となるのだろう。

分岐からは檜の植林帯の中を峠まで約 10 分(途中にお手水への分岐点)で、雲野尾峠頂上、ブッシュ化し見晴らしは良くないが、またおおきな岩石があり 9 人全員が登って記念写真を撮り下山にかかった。

お手水分岐からは杉丸太の階段が延々と 20 数分続き 15 時すぎにやっとお手水の滝・雲野尾分岐に着いた。結局石谷山頂上からは雲野尾峠経由で約 2 時間であり今回の石谷雲野尾峠山行は昼食・休憩時間を含め合計 4 時間半であった。今回もルートファインディング実地の有用な山行であった。

また梅雨時にもかかわらず雨の合間を抜く時



期設定・事故もなく幸運であった。帰りは鳥越温泉・平田に温泉に似たぬめりの多いアルカリ泉で疲れもとれおまけに¥300 と格安であった。

(中須賀 記、文と写真)

6月30日(土)

2012国民平和大行進(西諫早駅～大村市役所)

(参加者) 中里、佐原、中村、下釜、山口、林田、兵庫、岩永(元会員) 8名

(行程) 西諫早駅 9:20-10:45 諫早市役所前広場 11:10-11:50 ダイワハウス前 12:00-13:10 鈴田峠パーキング(昼食) 13:50-14:25 岩松駅 14:35-15:20 大村市役所

(感想) 昨年初めて平和行進に参加して、大村市役所から西諫早駅まで歩いた。

今年は昨年とは逆コースで、西諫早駅から大村市役所までを歩くことになる。

西諫早駅には、高城公園から参加するオレンジの仲間を除くオレンジ会員5名が集まり、昨年と一緒に歩いたあゆみハイキングクラブの石田会長や会員4名も参加している。

9時10分総指揮者の挨拶と県内通し行進をする大村の東よね子さんの挨拶のあと9時20分行進開始。当日セルフレスキュー訓練のため西諫早駅に集まっていたオレンジの会員や佐賀労山の仲間に見送られて元気に出発する。行事が重なったことはチョット残念。

通し行進をする東さんは、若い頃から平和活動が続けており3年前に退職したが、「平和運動に停年はない」と挨拶しており、この言葉に感銘すると共に、体調にイマイチ自信が持てなく、途中適当にリタイヤすればいいと考えている自分の甘さが恥ずかしい。

昨年は労山長崎県連の幟が無く寂しい思いをしたが、今年は長崎からの出発であり、幟もちゃんと用意されている。やはり有ると無しでは意気に大きく影響する。

小雨が降ったり止んだりの中、平和を訴えてゆっくりと行進する。上山公園を過ぎる頃高城公園から参加するオレンジの会員が、待ちくたびれて電話をかけてくる。

予想していた時間をオーバーしているため心配になったのであろう。もうすぐ着くと返信したが、行進は栄町アーケードを通り、市役所前広場が休憩場所であった。ここまで約1時間半もかかり、湿度が高い所為もあり、かなりキツイものであった。

早速高城公園で待っている会員に連絡して、ここで元会員を含め会員全員が勢揃い。オレンジ8名と、あゆみ5名の13名が労山の参加者です、と報告すると「13名ですか、多いですね」とほめられる。全参加者は88名とのことであった。

11時10分市役所前広場を出発。下大渡野交差点付近で、元会員の米田さんが対向する車の窓から手を振り励ましてくれる。疲れた顔を見せるわけにもいかず、こちら元気に手を振り応える。今年も小学生の女の子がお母さんと一緒に参加して、私の前を歩いている。子供は元気だ。うらやましい。

鈴田峠パーキングで昼食。生憎と食事中に大粒の雨となり、傘を差しての昼食となった。あゆみのメンバーは屋根のあるベンチを確保している。このパーキングはトイレ休憩もしたことがなかったので、設備を良く知らなかった。今後の参考にして欲しい。

15時20分ほぼ予定通り大村市役所到着。オレンジは3名が完歩。お疲れさまでした。懸念された肉離れは起こさなかったが、コンクリート舗装道路の長時間歩きは、いつもの如く足底に大きな肉刺ができ、一週間は痛さに悩まされることだろう。今日のご褒美にはいただけないが、完歩した充実感には満足しています。(兵庫芳隆 記)

7月8日(日)

沢登り

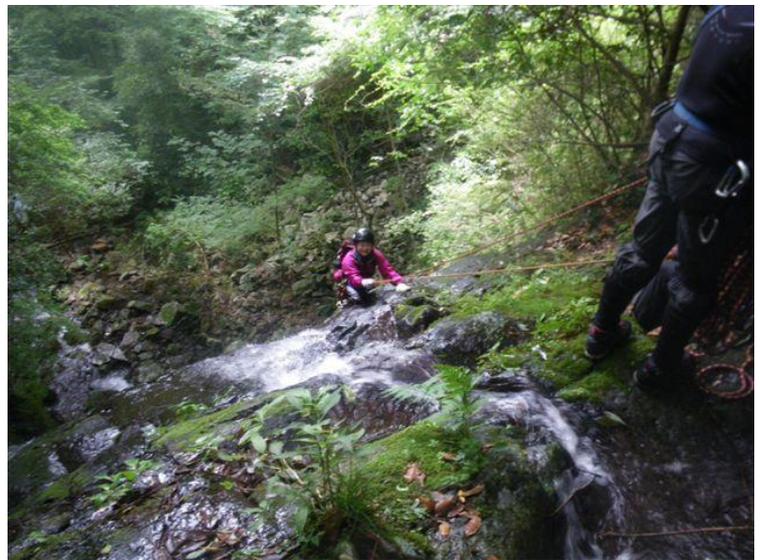
(参加者) 佐賀、江口、栗山、宮原、西村、淵野、カルチャー、浜崎、北嶋、岡本、東部、富永、オレンジ、川原、山下 (11名)

「ザイルアップ!!!」思いっきり大きな声を滝の上めがけて叫ぶ。今回最後の大滝。落差26mという滝。みんな登ってしまっていて私は滝壺に一人。ラストを務めるように言われた。最高部に残されているヌンチャクを回収することも忘れずに。

今年初めての沢登りに参加した。黒木の左俣。ここ何日もの雨でかなりの水量である。

沢を歩くだけで足元をすくわれる思いがした。体重が軽くなったかな? 笑い。

一昨年の大雨の日の沢登りで懲りたつもりだったが私の冒険心が持ち上がってしまった。雨こそどうにか降ってないが梅雨まだ明けきらず合間の曇り模様。下界はかなり蒸し暑いはず。幸せと思う。黒木の民宿の先、林道の行きつく所で着替えを済ませ、車止めのチェーン



を越えて少し歩いた所で皆沢靴に履き替え細い道を沢添いに入って行った。いきなり大きな倒木があり越えたりくぐったり・・・。沢に入るとさすがにまだ水は冷たかった。流れに逆らってどんどん進むと大岩と大岩の間の小瀑布を時々登ることになる。巻いて登れば楽なのだが皆せっかく沢登りなんだからおもしろい所を登らんばとのたまっておられる。必死について行っていると6mぐらいの滝に着いた。滝壺の横をスパイダーマンの様に張り付いて浜崎さんがト

ップを行って下さる。私は彼にロープを繰り出す係。そして次に登れと言われた。

浜崎さんが滝の上で大きな○を両腕で作って登りOKのサイン。浜崎さんが行った滝壺の横を張り付いて歩いたがみごとに腰まで水に使ってしまった。滝を登り始めるとなんだか落ち着いてきた。上でロープをつないでもらってるだけですごい安心感。少し滝のしぶきを浴びながらなんとかクリヤー。滝の上部まで上がると江口さんたちが拍手してくれた。滝をみて尻込みしてた方々も難なく登って来る。そしてまた大小の瀑布をクリヤーして昼食もすませて最後の大滝に着いたのだった。今回あまり経験を積んでない方もおられて私はいつのまにかお世話する役目に回っていた。この26mの大滝も一人ずつ登って自信なげに見上げていた人達も皆クリヤーされいよいよ私の番。滝と云っても余りしぶきのかからないところを足のとどくところをなんとか登った。！！ヌンチャクを2つ回収して上に上がると皆が拍手してくれた。こうして、この夏の一番暑い日の始まりは涼しさと爽快感ではじまった。

(山下 記)

御館山歩きに参加して

ルリ色の小鳥の声に時折聞こえる夏うぐいすの声。それにカラスの声に混じり下からは高校生の朝練の元気な声も聞こえます。

海拔99.9mの御館山展望台、朝8時になるとあちこちの登山口よりいつものメンバーが集まって来ます。そして山に縦横に作られた道を歩きます。メロンパンみたいな茸があちこちに生えたりめずらしいオオバノトンボソウという欄の



オオバノトンボソウ

一種が咲いてたり、時にはナガムシに出会ったりといろいろですが手入れの行きとどいた道、落ち葉踏みしめる道、走り根の上を歩く道、階段ありと恰好のトレーニング場です。

展望台の360度のパノラマも柚谷の狭い空しか見えない私にとって気分爽快この上もありません。朝のさわやかなスタートで一日が充実なものとなる様です。皆さんも出かけてみませんか？一緒にあるきましょう。(山口いつ子 記)



ゴルフボールのようなきのこ

梅雨空対策その1

訓練で作った足腰の筋肉は1週間で元にもどるらしい。傘をさして御館山歩くのも限度がある。階段は滑りやすいし、なによ





りそこまでして歩く仲間もあまりいない。そこで、当会に入会すると同時に通っていたトレーニングルームに行ってみた。森山スポーツ交流館という所。西諫早から車を走らせて20分程度。プールもあり、こちらはいつでもだれでも利用できる。体育館ではエアロビクスがあつてたり、ブラスバンドのマーチングの練習があつてたり。その上にトレーニングルームがある。体重測定を正確におこないマットの上で柔軟ストレッチを丁寧に行う。そ

の後、その日の気分次第で色んなマシンで筋トレを行う。上腕筋も色んな部位があり、それぞれの部位に効果があるマシンが揃っている。私はいつも岩登り沢登りで上腕筋の無さを痛感するので上半身の筋トレは結構がんばる。そしてここで一番のお勧めマシンがクライミングステアー。これは自宅に買おうとすると相当高いらしいのでここで20分位はステップを踏む。まるで山登りしている感覚でステップを踏む。プログラムを変えれば色々な山に登った感じ。今月、浅間山から続いて山行が3回雨で中止になった。で、15日の熊本の予定の日はあちこち声かけてオレンジメンバー5名で森山のスポーツ交流館に押し寄せた。日曜日なので初めての人も説明を受ければそのまま引き続いてトレーニングが受けられる。上半身を鍛えたいというY氏は上腕のマシンに精をだしている。K氏も汗びっしょり。膝が弱いM女子はエアロバイクで汗を流している。約2時間汗をかいた後はシャワーでさっぱりして家に帰った。これで今夜もビールがうまいぞ！皆さんもお試しあれ！！(山下 記)

暑さ対策その1

暑い日は沢を歩いて見よう。最初は沢を歩く事から始めて慣れてきたらシャワークライミングも快適になってくるはず。流れに逆らって沢を歩くのも足元をしっかりと落ちつけて歩く事は体重がある人が少し特な気分でもある。下界の暑さもしばし忘れず。滝のしぶきを浴びればマイナスイオンたっぷり。夢中で歩いている時は気づかないがエネルギー消費量はかなりの物で、体重減少も期待できそう。(笑い) ここ諫早は、多良岳の沢にととても近い。幸い素敵な指導者も健在である。ここで沢登りをしないのはもったいない。他所の山グループのメンバーがオレンジのK氏の指導を仰ぎに来ています。夏はやっぱり沢ですよ。装備は12ページを参照して。



雨の日の芸術
⇒は雲の巣
←はハンカイソウ



沢登りルック

ヘルメット
うっかり転倒で怪我するのを防ぐことができます。

アンダーウェア
水切れが良く乾きやすいもの。

中間着 (ミッドレイヤー)
泳ぐ時用の水切れのいいものと、吸汗速乾性のあるものを用意しましょう。厚みをもたせるように編まれたものなら保温性も良好!

ネオプレン®製のグローブ
指先の出るタイプ軍手を切るといい

パンツ
軽量で水を含まず水切れが良く、ストレッチ性があるものを。

ネオプレン®製のソックスとスパッツ
必要ない

ザック
30リットル位でいいです。濡れて困るものはビニールに。
ザックの中に!
ビニールの袋を入れてその中にお弁当、飲み物、途中で履きかえる靴を入れて歩きます。雨具なども。防寒にも役に立ちます。

溪流シューズでよい
沢登り用シューズ
滑りにくい素材でできたフェルトソール、または専用ラバーソールのもの。



7月8日黒木小川内左俣
写真提供 富永氏 (東部)

今月は長梅雨のため山行が3回も中止になりお陰で山行の感想文も少なくニュースが出せるのか心配しました。そんな時平和行進の記事や御館山歩きの記事を快く書いて下さって新米編集者として非常に嬉しく思いました。ありがとうございました。

おれんじニュースNo269	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2012.7.25
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/